

(別記様式第 15 号)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名

立科町

No.	事業項目	事業名
1	「みんなの暮らしを守る 森林づくり」に関する事業	立科町松くい虫防除伐採補助金
事業費 141,000 円 (うち支援金 : 141,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業の現状と課題

立科町の里地区の森林はアカマツ林が多く、松くい虫被害を受け、個人所有者は大変苦慮しているところである。

また、山林に隣接している、墓地などへ被害が拡大している。

(2) 本事業の目的

山林以外等のアカマツが松くい虫の被害に遭っていることで、被害木の倒木による二次被害を防止するため。

事業内容

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

- (1) 実施場所 立科町内一円
- (2) 対象者 立科町に土地を所有している者
- (3) 実施方法 被害木の伐倒・くん蒸及び焼却
- (4) 事業目標及び当年度事業量

被害のまん延防止のため、適切に伐倒を行った。 アカマツ : 48 本

① 全体計画 (平成 30~令和 4 年度)

年度	H30	R1	R2	R3	R4
事業量	44 本	32 本	48 本	11 本	45 本
支援金	749 千円	471 千円	598 千円	141 千円	772 千円

② 令和 3 年度実績

アカマツ 11 本を伐倒・くん蒸及び焼却



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施の効果

松くい虫被害のまん延防止対策として、適切に枯損木を処理することで、被害を未然に防ぐ。

(2) 継続性

松くい虫による枯損木は年々増加している状況で、山林以外のアカマツへも被害が拡大していることから、将来にわたり、事業を推進していきたい。

(3) 普及性

国庫補助対象とならない、山林以外等の松くい虫被害木の伐倒・くん蒸処理を行うことにより、住民の目に付きやすく、松くい虫被害防除対策への理解が得られる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

広報誌で住民に周知した結果、処理本数が目標に達成した。また、補助金を活用し処理をしようという意識が生まれ、被害の蔓延防止につながる結果となった。

(2) 課題

市町村境の山林を中心に松くい被害が拡大し、里内でも松くい虫による被害が見受けられるが、里内での倒木はその隣地等へ、物理的な被害を生む可能性が考えられる。

また、町外在住で当町に所有地のある方からの申請も数件見受けられ、駆除本数も多い。

町外在住者における土地管理は深刻な問題であり、補助金を活用し管理意識を高める目的でも、補助金事業を広く周知する必要がある。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

年度	R2	R3	R4
事業量	48本	11本	45本
支援金	598千円	141千円	772千円

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

(継続しない理由を記載)

令和 3 年度 森林づくり推進支援金事業総括書

市町村名	立科町
------	-----

No.	事業項目	事業名
1	「木を活かした力強い産業づくり」に関する事業	県産間伐材を用いたベンチの設置事業
事業費 631,400 円 (うち支援金 : 587,000 円)		

事業目的

(別記様式第 1 号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 地域の森林・林業も現状と課題
立科町では、林業の低迷等から森林への関心が薄れている。
このことから、当町では林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることを目標としております。

(2) 本事業の目的
県産間伐材を使用している旨を印したベンチを設置することで、森林税や間伐材などの身近な林業への関心を高める。

事業内容

(1) 実施場所
女神湖周辺及び耕福館前

(2) 対象者
町民及び観光客

(3) 実施方法
県産間伐材をベンチに加工し、県産材の PR を行う。

(4) 事業目標及び当年度事業量
①全体計画 (平成 30 年～令和 4 年)
県産間伐材使ベンチ 10 基設置
②令和 3 年度実績
県産間伐材使用ベンチ 8 基設置



事業効果

(別記様式第1号附表の「個別事業実績」から転記)

(1) 事業実施による効果

県産間伐材利用の促進。森林税活用のPR効果。林業の活性化。

(2) 継続性

効果の普及拡大のため、各観光地からの要望に基づき、今後も各所へベンチを設置することを検討する。

(3) 普及性

立科町各所にある観光地に、県産間伐材使用のベンチを設置することにより、住民や観光客への県産材や森林税の活用について、PRすることができる。

事業の検証及び評価

(実施結果を踏まえた自己評価と今後の取組方向について具体的に記載)

(1) 目標に対する成果の状況

女神湖周辺は観光地であり、耕福館は町民及び町外の方も利用するためPRの効果が期待できる。

(2) 課題

木製品ベンチを屋外に設置することから、腐敗等による事故を防ぐため、定期的な点検が必要。

(3) 今後の取組方向

事業を現行どおり継続する

(今後の事業実施見込について記載)

事業内容を見直して継続する

(見直し内容及び今後の事業実施見込について記載)

事業を継続しない

各観光地から要望があり次第、継続を検討する。